

研究の成果と課題

〈成果〉

- ・ 児童アンケートより、タブレットを活用することで「最後まで課題に取り組む」「粘り強く取り組む」ことができる、まあまあできると答えた児童が95%を超えている。ICT 機器の活用は、書くことが苦手な児童や、一人では考えつかない児童など、最後まで取り組むことに効果があった。
- ・ ICT 機器の使用は自分の考えを整理してまとめることに有効であり、さらに、友達の考えが「可視化」できたことで、友達の考えの理解がしやすくなった。
- ・ 1 学期は文字入力に課題がある児童が多かったが、ゲーム機能（キーボードなど）を活用したことで、すすんでローマ字を学習する児童が現れ、タイピングができる児童が増えた。今後も低学年からゲーム機能を活用してタイピング能力を身に付けるとよい。
- ・ 直前の活動の様子を振り返るだけでなく、前の時間の動画と見比べることで自分たちの話し合いがよりよくなっていることに気づくこともできた。

〈課題〉

- ・ 読み書きの基本的な力が身に付いていない状態で使っていても最大限 ICT 機器の良さが発揮されないこともある。
- ・ 児童アンケートで「タブレットを活用すると友達の考えがよくわかる」という児童が多かった半面、その考えをもとに自分の考えを再構築できたという実感が伴っていない児童も多い。友達の考えとの相違点や共通点を可視化し、自分の考えを整理できるようなタブレットの有効な活用方法の提示と友達と交流することの良さを感じられる協働学習の場を教師側が設定することが必要である。